

(別紙4) 平成 27 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3190100572		
法人名	鳥取県厚生事業団		
事業所名	認知症グループホーム くつろぎ		
所在地	鳥取県鳥取市伏野2259-17		
自己評価作成日	平成27年12月3日	評価結果市町村受理日	平成28年6月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人鳥取県社会福祉協議会		
所在地	鳥取市伏野1729番地5		
訪問調査日	平成27年12月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

くつろぎの基本理念・基本方針に基づいて「個人の尊厳」と「持てる力の発揮」「今までの暮らしに根ざしたその人らしい生活」を念頭におき、支援している。入居者が職員と一緒に買い物、食事作り、洗濯物たたみなど家事を中心に各々が得意なことできることをしながら、家庭的な雰囲気の中で普通の日常を送り、それぞれ自分のペースで生活できている。今までの生活の継続の一環として、家族との外出泊、買い物、食事など積極的に行っている。又、家族との関係を大切にして、話しやすい雰囲気づくりをし、信頼関係の構築に努めているところであるが、事業所に関わる関係者を含めて今後も強化を図り、信頼される職員、信頼される事業所でありたいと思う。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成27年4月に開設された事業所ですが、運営推進会議には地域の区長や医師、他の法人関係者もメンバーに加え、事業所運営のアドバイスを受けられる環境づくりに取り組まれています。運営推進会議で出た意見に対してはすぐに対応されるなど、運営推進会議を事業所運営に必要な機会と捉え取り組んでおられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目：11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念・基本方針を玄関と廊下に掲げ、いつでも目に入るようにしている。理念に基づき、目標として少しでも近づけるよう日々のケアを行っている。	理念は事業所開設段階においては、管理者が作成されています。開設時のオリエンテーションや定例会議の場で職員へ説明し、実践において職員全体で、理念の検証を行っておられます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	1年目であり、今は地域との関わりが少なく、活用できていないが、今後は、地域との関わりを深め、交流を図りたいと考えている。	自治会への加入はされていませんが、運営推進会議には地域の区長に加わってもらっています。月に一度、地域の傾聴ボランティアの訪問もあります。	地域の行事への参加や近隣の学校との交流など、事業所外との繋がりを広げられることに期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年4月開所の事業所であり、今は地固めの時期なので、事業所の運営や利用者の支援を優先し、地域貢献については、今後検討していく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今までに3回の運営推進会議を開催し、活動報告や相談を行い、委員からの助言や提案を参考に改善やサービスの向上に取り組んでいる。	運営推進会議は、家族、区長、民生児童委員、医師、他の社会福祉法人職員、市職員、包括支援センター職員が参加し、2か月に1回開催しておられます。会議のなかで意見箱の設置を求められる発言を受けて設置するなど、会議の意見を事業所運営に反映される機会とされています。	利用者も運営推進会議に参加できる取り組みに期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	鳥取市高齢社会課、こやま包括支援センターより運営会議に参加して頂き、助言や情報を頂いている。	運営推進会議に市職員や地域包括支援センターの職員が参加があり、推進会議での話題に関する情報提供を受けるなど、支援充実のための関係づくりに努められています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修への参加及び職員の理解を促し、拘束抑制廃止についてグループワークを実施した。夜間以外は、施錠は行っていない。	法人が定めた「虐待防止要綱」に基づき事業所で「身体拘束廃止指針」を策定しておられます。 法人が作成した「虐待防止シート」を活用し、年1回職員の自己チェックを行い、何が虐待に該当するのかを把握するとともに、研修やマニュアルで確認し、意識統一されています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を実施し、職員の意識を高めるよう努めている。身体だけでなく、精神的虐待もあることを職員に伝え、無意識も含め、グレーゾーンの行為がないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援事業や成年後見の対象者がなく、活用はできていないが、今後は、研修へも参加していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関して、本人・家族に十分な説明を行い、理解して頂けるよう努めている。今後必要になる解約、改定への説明が理解・納得でき、話し合えるよう家族との信頼を築いていくよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族代表の運営推進会議への参加、意見箱の設置はあり、意見に対しては、速やかな対応・改善に努めている。今後、利用者・家族アンケートの実施を検討する。	利用者の意向については、日常の会話や行動から把握するよう取り組んでおられます。また、お茶の時間等を設けるなど、利用者からの意見を聞く機会を作ることを計画されています。家族からの意見・要望については面会、電話の際に聞き取り、連絡ノートに記録しておられます。	利用者アンケートの実施や運営推進会議への参加など、利用者の意見を引き出す機会づくりに期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の職員の意見や提案を定例職員会議等で検討し、改善に向け努力している。意見が言いやすい環境づくりを心がけている。	連絡ノートに、職員の気づきや意見などが書き込まれ、月1回定例のスタッフ会議で利用者への支援や運営についての話し合いが行われています。また、所長・管理者は、年2回個別面談を行い、職員の意見等を聞く機会を設け、休憩時間の見直し等運営に反映しておられます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の休憩が取りにくい実態があった為、業務と休憩時間の見直しを提起し、休憩時間の確保に努めた。又、個別面談を実施し、個々の課題や適性の把握に努めた。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人やいこいの社との合同研修を実施し、各種研修へ参加させ、必要な知識技術の習得に向け努力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症グループホーム協会に加入し、情報収集の機会を作った。今年度は研修等への参加はできなかったが、来年度は、外部研修への参加も考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いを傾聴し、家族からも聞き取りを行って情報を収集し、愛着のある物や家具を身近に置くことで安心して生活できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いや不安、要望等どんなささいなことでも聞かせて頂けるよう、話しやすい関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の情報からケアの方針を立てその人らしい生活の提供を目標としているが、内容によっては、必ずしも思いに添えないこともある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今までしていた家事等の作業を職員と分担し、おかげで助かっているという感謝の言葉を伝えている。お互いに協力し合い、安心できる暮らしを築いていきたい。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が気軽に話ができたり、相談できる関係づくりに努めている。家族とも相談しながら、今までの暮らしが途絶えないよう配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族にも協力してもらい、今までの暮らしや人との関係が途絶えないよう、家族・友人が訪ねて来やすい場所であるよう努めている。	入所時に本人・家族から以前の生活歴を聞き取り、「私のシート」を利用者一人一人に作成され、美容院や外食など以前から馴染みのある場所への送迎を家族の協力も得ながら行われています。友人が毎週訪ねて来られる方もあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係が良くない時には、職員が間に入って話をしたり、話題を変えたりして、場の空気が悪くならないよう孤立しないよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約の終了が1件あったが、事業所も始まったばかりで対応の仕方が十分でなく、今は終了後の関係性はない。今後は、本人家族の思いや関係性を大事にしていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から、本人の思いや希望を引き出すようにしている。困難な場合は、家族より聞き取り、本人の言動から思いを推測し、本人主体となるよう検討している。	日々の生活の会話や様子から、利用者本人の希望や思い、過去の生活歴などを把握するように取り組まれています。意見が出やすい雰囲気づくりのため、お茶を飲みながらの座談会などの企画も検討されています。	利用者個々の思いをより把握できる取り組みとなるよう期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から面接時の聞き取りを行い、入居時にも私シートの記入を依頼している。入居してからも本人・家族に、継続的に聞き取りを行い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居時にセンター方式ケアマネジメントを活用して1日の行動把握に努め、日々介護日誌に気になる方の心身の状態を記録し、情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回と数ヶ月毎のモニタリング実施。包括的ツールを用いて細かくアセスメントし、職員や医務と意見交換を行って本人・家族の希望を介護計画作成に反映させている。	利用者、家族、職員、看護師、介護支援専門員などで話し合い、計画を作成しておられます。月1回のカンファレンスを行い、現状に即した介護計画を作成しておられます。6カ月ごとの見直しを基本としながら、毎月のモニタリングにより必要があれば随時変更もされています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は介護日誌に記入し、ケース記録に打ち込んでいる。ケアや業務への意見や問題提起は、ノートを活用し、職員間で検討したり、振り返りやすくしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズを把握し、できるだけ要望に添えるよう努めている。今後は視野を広く持ち、その時に生まれるニーズに、柔軟に対応すると共に、工夫・検討を行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの開拓に努め、希望者は、支援センターでの地域の活動に参加したり、事業所以外での活動を促進中である。今後は、もっと地域との関わりを深めたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所のかかりつけ医を紹介しているが家族や本人の希望があれば、元のかかりつけ医を継続してもらっている。	入居時にかかりつけ医を確認され、原則家族対応で継続的に受診されています。家族での対応が困難なであったり、往診が必要な利用者は事業所の協力医に切り替えられる場合もあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の体調について気づきや相談を会議や申し送りを通して常時行い、情報を共有している。必要に応じ、スムーズに受診できるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の地域連絡室と連絡を取り合い、看護師と共に面会に行っている。入居者の状態把握や今後に向けての働きかけについて情報を交換し、検討に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応に関する指針を基に今後必要時には、入居者や家族と十分に話し合いにとりかかれるよう家族との信頼関係や関係者との協力体制を構築しながら支援していく。	「重度化対応指針」「看取りに関する指針」を定められています。利用開始時に、事業所として対応できること、できないことを利用者、家族、職員で話し合いながら方針を決めるようにされていますが、今まで看取りをされていません。	重度化・終末期に向けたケアや看取りに関する意識や方針が職員間でされるよう期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員一人ひとりが、対応の仕方について熟知する必要がある為、救急救命研修の実施や緊急時の対応について確認を行ったが、定期的な訓練はできていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	福祉センター内での協力体制はできているが、地域への働きかけや協力体制ができていないので、早いうちに協力体制や対策を整備していきたい。	敷地内の同法人の施設と合同で火災想定避難訓練が行われています。訓練の際には近隣の警察学校から協力を得て実施してもらわれます。	夜間想定避難訓練や地震・水害時を想定した対策を実施されることに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの行動や思いにその都度対応し、人格を尊重しているつもりであるが、きちんと向き合っているかや言葉のかけ方など会議や申し送りの中で提起している。	様々な研修で意識付けをし、日々の生活の中で、さりげない声掛けをして食事の介助や排泄支援などを行っておられます。気づいた時にはお互いに注意しながら利用者を尊重した言葉遣いや対応をするよう努められています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の言葉や表情から思いを酌み取り、利用者主体の対応に努めている。利用者が遠慮なく意見を言い、のびのび生活できるよう、自己決定を促していく。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ほぼ個々のペースに合わせた支援ができています。但し、起床時間・朝食時間に関しては、職員主導になっている面があるので、問題提起し、ケアの統一に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立している人が多いが、本人の好みを尊重して、どの服が良いか決めてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	材料の下ごしらえ、調理、盛り付け等、各人ができることをしてもらいながら、職員と一緒に食事作りを楽しんでいる。定着している。	利用者と職員と一緒に準備や食事をしておられます。法人敷地内の他施設の菜園で利用者と収穫した野菜を使用したり、近所のスーパーと一緒に買い物に行くなど、メニューを利用者の希望を取り入れながら決めることで、食事を楽しむことのできる支援に努められておられます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を記録し、把握している。不足している時には、摂取の回数を増やしたり、代替りの物を提供して補っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助が必要な人は、概ねケアができていますが、自立の人は、声かけだけに終わってしまったり確認ができず、十分なケアができていないとは言えない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の動きに合わせ、トイレで排泄介助している。又、支援が必要になってきた人に関しては、自尊心に配慮しながら行っている。	利用者の水分摂取量や排泄回数、時間等を記録し、排泄パターンの把握に取り組んでおられます。排泄パターンや利用者の様子を見ながら、声掛けを行い排泄の自立に向けた支援が行われています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し、排便コントロールしている。便通に良い食材を食事に取り入れ工夫しているが、運動量も少なく、薬に頼っているため、工夫・改善を検討している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望に添えないところもあるが、説明し納得してもらっている。(毎日入りたい、寝る前に入りたい等)。それ以外は、個々の状態に合わせて入浴してもらっている。	週2回の入浴を基本とし、それ以上に入浴を希望される利用者には足浴を行うことで対応されています。	事業所や職員の都合に合わせるのではなく、利用者の生活習慣やその時々希望に沿って入浴できるよう、体制を整えられることを期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間眠れない人には、飲み物を提供したり、話相手になり、安心できるよう支援している。 安眠の為にも、今後は日中の活動量を増やしていきたい。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の理解については、十分把握しているとは言えないが、服薬ファイルを作成しており、いつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の生活歴や興味を活かした楽しみの提供に努めている。今後も本人の満足感や気分転換、生活の充実に向けて、一緒に考え支援していく。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の喫茶や食材の買い出しに出かけているが、行事的な外出ができていない。今後は、外出の機会を増やしていきたい。家族との外出は、多い。	友人と事業所の庭でグランドゴルフをしたり、敷地内の他施設の菜園で野菜の収穫を行ったり、食事の買い物と一緒に出掛けたりされています。	利用者全員がそれぞれ、日常的に出かけ、楽しめる機会が増える取り組みを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお金を持ちたい人には、職員が金額を把握し、本人に所持してもらっている。買い物に出た時には、本人の財布を持ち、好きな物を購入できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持しているのは2名であるが、その他の利用者も家族に電話したい時にはいつでも電話できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は採光が良く明るい。十分な空間を確保できるよう、相談室やウッドデッキ等を活用している。夏場・冬場の空調については、その都度対策を検討している。	食堂を兼ねた共用スペースは、ゆったりとした広さがとられ、落ち着ける採光や快適な温度調節に配慮されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	相談室を活用し、ソファを置いて周りを気にせず自由に過ごしてもらえよう場の提供をしている。相性を考え、席の配置等考慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人で使い慣れた家具や手元に置いておきたい大切な物を持ってきてもらい、安心して穏やかに暮らせる環境づくりをしている。	居室にはタンスやミシン、仏壇など、利用者が以前から使用されている馴染みの物が置かれています。利用者・家族に対して使い慣れたものを持参して頂くよう声掛けがなされ、居心地の良い環境づくりに取り組まれています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下に手すりがあることで、安全に歩行できている。玄関と居間が近い為、利用者が外が気になることがあるが、作業やレクの提供を行って、離設を防いでいる。		

※市町村へ提出後、本会へ、提出日をお知らせいただくとともにデータでお送りください。

(別紙4(2))

事業所名 認知症グループホームくつろぎ

作成日: 平成 28年 6月27日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	45	入浴を楽しむことができる支援、本人の希望に添えないところもある。	週2回の入浴を週3回に増やし、一人ひとりのタイミングや状況にそって入浴していただく。	職員会議で業務見直しの話合いを行い、週3回入浴を4月より試行、調整を行い5月から本格的に実施している。	実施している
2	4 10	運営に関する利用者、家族等意見の反映について、運営推進会議へ利用者も参加できるように、また、利用者の意見を引き出す機会作りや取り組みが必要。	利用者も運営推進会議へ参加できるように取り組む。また、利用者それぞれの意見や思いを個別で聞き取り、解決できることは早急に対応し施設サービスの満足度を高める取り組みを行う。	4月運営推進会議に利用者に参加してもらい、会議の様子や雰囲気を経験された。6月以降の会議にも利用者参加を予定している。また、7月より行事予定表に利用者意見や思いを聞き取る機会を設定する。その場で解決できることは早急に対応し、検討が必要なことは職員会議等で検討し対応する。	1ヶ月
3	2	事業所と地域との付き合いで傾聴ボランティアの訪問はあるが、地域の一員としての関わりが少ない。	地域行事への参加を通し、地域の様子を把握すると共に、住民の方々と交流し、地域の一員としての意識がもてるようにする。	4月、伏野地区獅子舞保存会の訪問で獅子舞踊りを披露していただいた。8月に中の茶屋納涼祭、10月末恒地区公民館祭への参加を予定している。	2ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。